

宮城県・亶理町 いちご農家の被災、復興状況についてのメッセージ発信プロジェクト

【プロジェクトの概要】

宮城県亶理郡亶理町は東日本大震災前、年間 30 億円近くの売り上げを誇る、東北でも有数のいちご産地。いちご農家人口は約 200 人、非常に活況を呈していた。

「震度 6 弱」を記録した東日本大震災で、町民 297 名が尊い命を奪われ、5500 棟を超える住宅などが全半壊、一部損壊を被り、町の公共施設や道路・河川・海岸など社会のインフラ、農水産施設を含め被害額は 3000 億円以上。イチゴ畑の 9 割が被災した。

JKSK 結結プロジェクトでは、2011 年 7 月 15 日～16 日に亶理町で「第 1 回車座・交流会」を開催した。

被災地の見学、地域で活動している女性リーダーの皆さんをはじめ多くの方々と交流し、直面する課題について意見交換を行った。その時に出会ったのが、ボランティアセンターで活動する皆さんが手作りしていた、フェルトの装飾イチゴだった。亶理町の女性たちが“1 日も早い復興を願って作って下さったイチゴのオーナメント”を添えて「亶理町の今」「復興状況」「亶理町のこれから（復興計画）」などについて、1 人でも多くの全国の人々に、メッセージを届けよう。そして、復興が実現した暁には、仲間としてイチゴの賞味者、消費者になってもらおうと、スタートしたのが「イチゴオーナメントプロジェクト」である。

ふらっと一ほく 松島宏佑さんがスタートさせた。



